

文教協会報

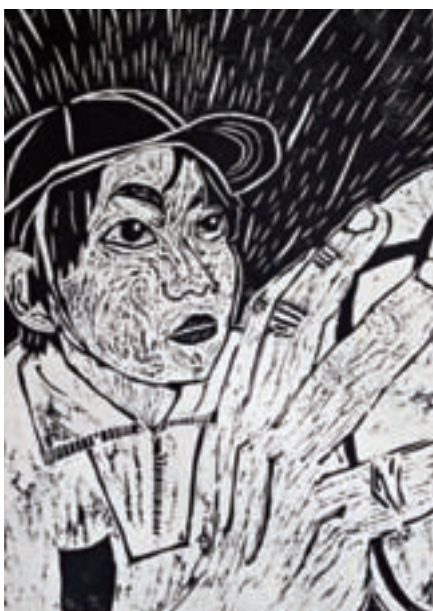
No.676

(令和4年7月)

まなびの泉
心のかよいあい

わくわく協働活動
ぬくもり
ふるさと・再見
声 こえ VOICE
～文教のまち 大垣～
ふるさと美術散歩

令和4年度 幼児教育指導の方針と重点について……………	2
体幹を鍛えよう！牛乳パックイス作り(安井幼稚園) ……	3
明日に向かって成長する子どもたちのために(綾里小学校) ……	3
ポールウォーキング……………	4
令和4年度の取組について……………	5
墨俣川の東……………	6
高める防災力の輪……………	7
第59回 大垣市文教協会総会……………	8
守屋多々志生誕110年 美術館に行こう！……………	8



大垣市立赤坂小学校児童の作品



令和4年度 幼児教育指導の方針と重点について

1. 内容の趣旨

平成30年度から施行された幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領では、幼児教育から高等教育までを見通して育みたい資質・能力が明確にされました。人格形成の基礎を培うとともに自発的な学びを生み出す基盤として、幼児教育の重要性が再認識され、小学校以降の教育に向け見通しをもった幼児教育の展開が求められています。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明示され、これらの姿をもとに子どもの育ちを共有することが求められています。

そこで本市でも、「大垣市第3次子育て支援計画」「大垣市乳幼児保育・教育第3次アクションプログラム」「大垣市第2次教育振興基本計

画」のもと、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和がとれた子どもの「生きる力」を育むために、園や小学校、家庭、地域等が協力し、笑顔があふれ、自立した子どもの育成を目指しています。

令和3年度は、人との関わりについて幼児期から丁寧な指導・援助することを継続して行い、心の教育の充実を図ることができました。また、タブレット端末や動画等を活用した交流活動を進め小学校との連携の工夫を行いました。

以上を踏まえ、より一層質の高い保育・教育に取り組み、子育て支援の充実を図るため、令和4年度の「幼児教育指導の方針と重点」を以下のように策定しました。

2. 幼児教育指導の方針と重点

<全体構想>

【第3次子育て支援計画】

基本理念	子どもが健やかに育ち 安心して子育てができるまち	
基本目標	1 子どもたちの笑顔あふれるまちづくり 3 健やかに親子が暮らすまちづくり	2 子育ての幸せ感じるまちづくり 4 子育てをみんなで支えるまちづくり

【第3次アクションプログラム】

基本目標	1 保育者等の資質・専門性の向上 3 発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実 4 保育・教育を支える基盤の強化	2 子どもの健康・安全な園生活の確保 5 子育て支援拠点の充実
------	--	------------------------------------

【幼児教育指導】

基本方針	1 子どもの健やかな成長を育む活力ある園経営 2 発達や学びの連続性を踏まえた指導の充実 3 保育者としての資質及び専門性の向上 4 多様なニーズに応じた子育て支援の充実
------	--

<方針と重点> ◎最重要

1 子どもの健やかな成長を育む活力ある園経営	2 発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実
◎全職員による保育・教育目標の具現と評価・改善 ・安心・安全な園生活を目指した危機管理体制の確立 ・心身の健康とやりがいにつながる働き方改革の推進	◎ねらいを明確にした指導計画の作成及び改善 ・遊びを通じた指導の工夫 ・心の教育の充実 ◎円滑な接続に向けた小学校との連携内容・方法の見直し
3 保育者としての資質及び専門性の向上	4 多様なニーズに応じた子育て支援の充実
◎指導力の向上に生かす実践研究の充実 ・資質の向上を図るための組織的・継続的な研修	◎一人一人の特性に応じた支援の充実 ・家庭教育・子育て支援の充実

(保育課 鹿野 由美子)



体幹を鍛えよう！ 牛乳パックイス作り

安井幼稚園 PTA会長 若井 志保

安井幼稚園は3歳児から5歳児までの園児が、自ら好きな遊びを見つけ、毎日元気に遊んでいます。地域とのふれあいを大切にしている、野菜の苗植えの時期には「野菜博士のおじさん」を招いて苗植えの仕方を教えていただいたり、地域の講師を招いてお茶会を開いたりと新型コロナウイルス感染予防をしながら、さまざまな交流を行っています。

安井幼稚園では数年前から毎年行われているのが牛乳パックを使ったイス作りです。それまでは背もたれのある子ども用のイスで園生活をしていました。ですが、体幹を鍛え姿勢が良くなるということで背もたれのない牛乳パックのイスを保護者が自分の子どもに作り、園生活に活用するのがPTA家庭教育学級の恒例行事となりました。

3歳児が園の生活にも慣れ、落ちついてきた秋頃に保護者が集まり、自分の子ども用の牛乳パックイスを作ります。牛乳パックの中にさらに牛乳パックを詰めて強度を高めたものを4本貼り合わせ、子どもが好きなイラストを描いて完成です。お家の人が作った自分だけのイスと

いうこともあり喜んで座ってくれます。

4歳児になると成長しイスが低くなるので、牛乳パックを2本追加し高さを加えます。

5歳児になると座面を半分にして、より体幹が鍛えられるような作りになります。牛乳パック2本分の狭い座面でも、子どもたちはふらつくことなくしっかり座ることが出来るようになり、良い姿勢が身に付きます。

感染防止対策で保護者が集まるのが制限されたここ数年は、PTA役員や年長児の保護者などが作り方を教え合い、少人数や家での牛乳パックイス作りを行いました。

自分の作ったイスに子どもが座り、幼稚園生活の中で体も心も成長していくのは、とてもうれしいことです。子どもの健やかな成長につながるような活動を今後も続けていきたいと思えます。



牛乳パックイスに座る子どもたち

明日に向かって成長する 子どもたちのために

綾里小学校 PTA会長 山田 嘉隆

本年度のPTAスローガンを「地域に感謝！みんな笑顔のPTA」とし、地域の方々の支援を常にうけていることに感謝しながら、会員の皆さんと前向きに明るく、無理をせず協力し合いながらPTA活動を実施していこうと考えております。

今般の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、この3年間実施予定をしていた事業は中止を繰り返しており、満足に実施できませんでした。今年度計画している事業も、どの程度実施できるのか見通しが立たない状態ですが、明日を担っていく子どもたちのためにできるだけ事業を中止しないで実施できるよう模索していくつもりです。

そんな中、今年度最初のPTA活動として、地域の方の協力のもと古新聞やアルミ缶等の資源回収活動を実施することができました。集積場所には消毒液を配置し、参加者全員はマスクを着用して黙々と、かつ和やかな雰囲気で行

った活動を行うことができたと思えます。

このまま、まん延防止期間や緊急事態宣言が出されないままで、収束に向かっていけたらと願うばかりの毎日です。

話は変わりまして、綾里小学校は今年創立150周年を迎える年になります。当初の学校は寺子屋から始まり、場所は運転免許更新でお世話になる西濃運転者講習センターにあったそうです。今、周年事業の実行委員会を立ち上げ、コロナ禍の影響を最小限に抑えながら、できるだけ中止にならない事業を検討しているところです。

未来に向かって成長し続ける子どもたちの記憶に残る1ページとなるよう、PTA一丸となってできることを頑張りたいと思えます。



資源回収の様子

ポールウォーキング

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、運動する機会が減り、ウォーキングに取り組む人が増えています。

そこで、ウォーキングをさらに楽しんでいただけるよう、2本の専用ポールを使うことで負荷が軽減し、全身運動になる「ポールウォーキング」を紹介します。

2 ポールウォーキングとは

平成9年（1997）に、クロスカントリーオフシーズンのトレーニングとして2本のポールを使用するウォーキング「ノルディックウォーキング」が誕生しました。これは、下肢への負担を減らす効果があることから欧州で多くの人に親しまれてきました。

そして、平成19年（2007）に、日本で「ノルディックウォーキング」を参考に専用のポールが考案され、「ポールウォーキング」が誕生しました。

「ポールウォーキング」は、「ノルディックウォーキング」より負荷が少なく、誰でも簡単に始めることができる運動効果の高いウォーキングです。

3 ポールウォーキングの効果

ポールウォーキングは、専用のポールを使用することにより、体重を支えるのが両足を含めた4点になり、負担が分散され、腰痛に悩んでいる方や高齢の方も無理なく行えます。また、転倒予防、筋力維持、骨粗鬆症こつそしょうしょうの予防・改善等の効果があります。

さらに、ポールを持って歩くことにより、下半身だけではなく、上半身を使った全身運動になるため、消費カロリーも大きくなり、メタボリックシンドロームの予防・改善やシェイプアップ効果も期待できます。

4 ポールウォーキングのフォーム

ポールウォーキングは、普段歩く時のフォームを基本に次の5つの点を意識します。

- (1) 背筋を伸ばし、目線は20m前方を見る。
- (2) 足の動きに合わせて、肩の力を抜いてリラックスし、腕は前後にスイングする。
- (3) 歩幅は、普段歩くときより半歩ほど広くする。
- (4) 着地は、かかとから、つま先に重心を移動させる。
- (5) かかとの着地と同時にポール先端をかかと付近に着くようにする。



[ポールウォーキングのフォーム]

5 おわりに

大垣市では、各校区の名所を回りながらウォーキングを楽しめる「大垣市ヘルシーウォークマップ」を作成し、大垣市HP (<https://www.city.ogaki.lg.jp/0000016703.html>) に掲載しております。是非、ご活用いただきながら、負荷が少なく、運動効果が高いポールウォーキングに挑戦してみてください。

(社会教育スポーツ課 初島 隆斗)

ぬくもり

令和4年度 of 取組について

1 令和4年度 大垣市版「GIGAスクール構想」の推進について

誰一人取り残すことのないすべての児童生徒に配付した一人一台のタブレット端末の運用が始まり、本年度は2年目を迎えました。

昨年度までに、現場の教職員及び児童生徒が取り組まれた内容を基に、今年度の方針等をお伝えします。

【ICTを活用した学習の充実】

(1) 授業づくり支援

GIGAスクール支援員が学校を訪問し、授業参観を通して、ICTを活用した学習の提案を教職員へ直接伝達します。懇談等ができない場合は、文書による還元をし、記録に残るよう支援いたします。

(2) 教員用研修支援

授業で活用したい操作、システムの内容の理解を校内研修します。2年目となった本年度は、経験年数を問わず、希望者が1人でも研修を受けられるよう支援いたします。

【すべての教職員に資料提供】

すべての教職員が学ぶことのできるICTに係る活用サイトを運用しております。教職員の日々の実践を生かすことができる情報や資質向上に資する研修動画や資料の掲載やその活用を推進してまいります。「困った時は、このサイトへ」を合言葉にタブレット端末から接続できるように整備しております。

また、児童生徒専用のサイトも設けました。一般に閲覧できるようになっております。

どうぞ、ご覧ください。

<URL>

<https://sites.google.com/ogaki-city.ed.jp/gigaseito/>



2 情報モラル教育の推進について

スマートフォンやタブレット端末、パソコン、ネット通信可能なゲーム端末等、さまざまな媒体の普及により、各家庭の中にも情報機器に触れる環境が日常的になりつつあります。

情報モラルについては、家庭と学校が両輪となって取り組んでいく必要があります。現在、お子様がスマートフォンを持っていない家庭においても、将来の安心・安全のために、次のようなことを話題にして、親子で情報モラルについて話し合っておきましょう。

【話し合っておきたい3つのポイント】

(1) フィルタリング

岐阜県青少年健全育成条例には、「保護者は、青少年（18歳未満）がインターネットを利用するにあたって青少年有害情報を青少年が閲覧し、又は視聴することを防止するよう努める」と規定されています。フィルタリングをかけることに加えて、どうしてフィルタリングが必要なのかを家族で話し合うことも大切です。

(2) 健康面について

スマートフォンやタブレットを1時間利用したら10分間程度は目を休ませる、就寝する前の30分間は利用しないなどの約束を決めておきましょう。夜間は保護者の目の届くところにスマートフォン等を預かることも重要です。

(3) みんなが納得する約束づくりについて

家庭でのルールや約束は、子どもも保護者も納得をして決めることが大切です。ルールや約束を決めるにあたっては、親は子どもを守るためにどんな心配をしているのか、子どもは何のために利用しようとしているのかをお互いに説明し、家族みんなが納得できる約束をつくって利用するようにしましょう。

(大垣市教育総合研究所 棚橋 直仁)

1. はじめに

現在、関東というと関東地方が思い出されますが、古代において関東とは、3つの関所の東でした。それは、不破関、鈴鹿関、愛発関の3つをいいます。この付近の関所でみますと、関ヶ原町の不破関の東になりますから、大垣市は関東になります。

この東西を分ける境は、その時代によっても変化していきます。ここでは、源頼朝が書状で示している東国との境についてみていきましょう。

2. 「墨俣以東」ということ

1185年は、源氏が壇ノ浦で平家に勝利した年です。この年は、全国に守護・地頭を置くなど、源頼朝が権力を確立した年でもあります。現在では、鎌倉幕府の成立を1185年にする意見が有力です。

この年に頼朝が出した以下のような下文（命令書）が『吾妻鏡』にのせられています。『吾妻鏡』は、鎌倉時代の歴史について書かれたものです。

これは、元暦2年（1185）4月15日の内容（現代語訳）です。

「東国の武士の中で、朝廷より官職を受けた者に知らせる。本国へ帰ることを禁止する。それぞれ京都にいて任じられた官職に勤めよ。（中略）今更東国へ帰る必要はない。もし墨俣をこえて東へ（原文では、墨俣以東）下向したら所領の没収や斬首に処されると心得よ。」

これは、東国の御家人で朝廷から官職を受けた者にあててのものです。内容は、京で受けた官職は京でしっかり勤めなさい。東国へ帰ってくる必要はない。墨俣より東へは、帰ってきても、領地は没収するし、処刑（斬首）するというものです。

この下文のもともとのねらいは、頼朝に無断で朝廷から官位を受けた義経が、東国へ入ることを阻止するものであったのですが、その時の東国の境目が「墨俣以東」と書かれているのです。つまり、墨俣より東が東国とみなされていたことがわかります。そして、境目となったのは墨俣川（長良川）であったと考えられます。

3. 墨俣川（長良川）

鎌倉時代の墨俣川は、どのような様子だったのでしょうか。今より地形や川の流路が、かな

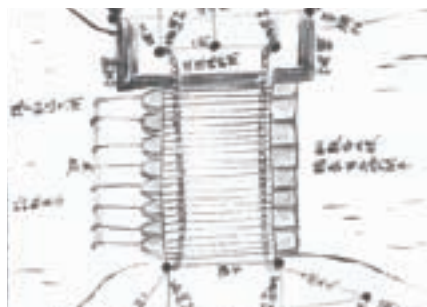
り違っていたことは予想されます。

この頃の墨俣川の様子については、阿仏尼の『十六夜日記』に書かれています。阿仏尼とは、鎌倉時代の女流歌人で、『十六夜日記』は、建治3年（1277）に京都から鎌倉まで旅をした時の紀行文です。大垣付近を通過して、笠縫町の子守神社には、歌碑があります。

『十六夜日記』に書かれた墨俣の様子は、次のようです（現代語訳）。

「墨俣という川には舟を並べて、正木の綱で繋ぎとめた浮橋がある。大変危ないのだけど渡る。この川の堤のある方は深くて、対岸は浅い。」

これで見ると、墨俣川には舟をつないで、舟橋のようなものがかかっていたことがわかります。かなり広い川だったのでしょう。渡るのに非常に危険だったようで、墨俣側（堤のある方）は深く、対岸は浅かったことがわかります。



墨俣川にかかる舟橋の図
【大垣市立図書館蔵】

4. 東西の分岐点

鎌倉時代の頃は、川の流れが現在と違って、川幅は広く、時代によって流れている場所も違っていました。例えば、揖斐川の本流は現在の杭瀬川でした。平治の乱に敗れた源義朝は杭瀬川を舟で下って知多半島の方面へ逃れました。

また、墨俣川（長良川）も海のように広くて墨俣川の戦いや承久の乱が行われた時も、東西を隔てて両軍の戦いが行われました。特に墨俣川の戦いにおいては、頼朝の弟にあたる義門がこの地で討死しています。

このように、大きな川が近くを流れ、地形的にも東西の分岐点になっていることから、墨俣の地は、鎌倉時代には大変重要な地点となっていたことがわかります。



現在の墨俣

（大垣市立図書館歴史研究グループ 坂東 肇）

高める防災力の輪

岐阜県立大垣特別支援学校 防災安全部長 前田 教嗣

はじめに

当校では、学校・家庭・地域のつながりある防災力を一つの輪と考え、一つ一つの防災力を高めることで、輪の力を強化できると考えました。そこで、災害発生時に命を守りぬくことができるように、以下の3つの分野に分けて防災教育に取り組みました。

1 学校での防災学習

学校では、防災教育の年間指導計画を立て、小学部、中学部、高等部の全校児童生徒が発達段階に応じた防災教育を生活単元学習等の授業の中で行っています。その他に、年に3回「命を守る訓練（避難訓練）」と、毎月「シェイクアウト訓練」の実施により、児童生徒と職員の防災への意識を高めています。

今年度は、地域の消防署に依頼し「地震体験車による訓練」も行いました。日頃の訓練では味わうことのできない地震の揺れを体験することができ

ました。また、改めて防災や減災の取組みが大切であることを理解することができ、貴重な体験



「地震体験車による訓練」

になりました。

さらに、今年度より高等部生徒会を中心とした「スクール防災リーダー活動」も発足しました。生徒たちで全校児童生徒とその家族に防災の啓発活動をしたり、地域の方々と防災について交流したりすることを目指しています。

2 家庭と連携した防災教育

家庭と連携した防災教育では、「家庭の減災力テスト」を実施し、その結果を基に「防災だより」を作っています。防災についての情報や学校での防災教育の取組みを知らせることで、家庭とともに防災への意識を高める機会を作る

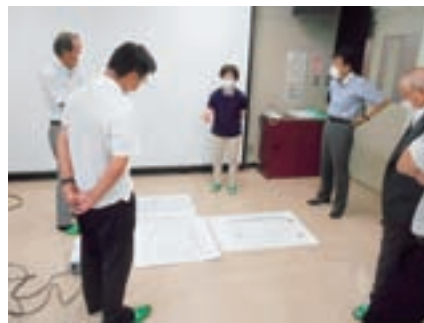
ことができました。

また、「災害用伝言ダイヤル（171）」の体験期間を活用し、児童生徒とその家族が一緒に取り組み、「災害用伝言ダイヤルクイズ」を行いました。実際に「災害用伝言ダイヤル」に触れることで、保護者からは「災害発生時の連絡手段の一つにしたい。」という声が聞かれ、有意義な取組となりました。

3 地域と連携した防災

当校は大垣市の指定避難所となっていますが、避難所運営について、地域の自治会との連携が殆どとれていませんでした。そこで、昨年度は自治会の方にも当校の防災研修会に参加していただき、一緒に避難所運営について考える機会をもちました。また、今年度は学校近隣の5つの自治会の会長に声を掛け、当校の避難所運営協議会を開催しました。

協議会の中では、自治会の方から、「特別支援学校に声を掛けてよいか躊躇してしまうことが多い。」という声が聞かれ、学校側から積極的に働きかけ、地域と連携を深めていく重要性を感じました。



「防災研修会」の様子

働きかけ、地域と連携を深めていく重要性を感じました。

まとめ

以上のような防災の取組みを行ってきたことで、児童生徒や家庭、職員の防災への意識が高まり、さらに学校と地域が連携を図ることで、防災力の輪を強化することができました。しかし、保護者からは「防災について、住んでいる地域と繋がりをもてていない。」という声が聞かれ、今後は家庭とそれぞれの地域との繋がりを強められるような取組を進めていきたいと考えています。



～ 文教のまち 大垣 ～

第59回 大垣市文教協会総会

令和4年5月24日（火）第59回大垣市文教協会総会を大垣市役所に参集された役員の皆様と各学校・各園の教職員の皆様、そして特別会員の皆様、総勢1,000人を超す参加者をオンラインで結び、開催しました。

第1部の総会では、市長石田仁様にご祝辞を頂戴しました。また、小川信也会長は、「コロナ禍においても、『文教のまち大垣』としての取組を前向きに進めていきたい。」とあいさつしました。続いて、令和3年度事業並びに決算報告、令和4年度事業計画並びに予算が報告されました。

第2部では、一般社団法人SDGs支援機構事務局長 深井 宣光様より、『ワクワク盛り上がるSDGs～子どもたちと「考える」ことを楽しむ授業づくり～』と題してご講演いただきました。SDGsの17の目標には答えがなく、子どもたちと一緒に答えを見つけること、子どもたちの自由な発想が未来を変えること、そのための5つのステップなどを教えていただきました。SDGsがぐっと身近になり、子どもたちとSDGsを考えたい！と感ずることができました。

（学校教育課 林 のり子）



【深井 宣光様の講演】

SDGsとは…持続可能な開発目標

（Sustainable Development Goals）の略。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟国193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標。

17の大きな目標と、それらを達成するための169のターゲットで構成。



ふるさと美術散歩 守屋多々志生誕110年 美術館に行こう！

大垣市名誉市民で昭和から平成における歴史画の第一人者として活躍した日本画家・守屋多々志、大正元年（1912）に本市で生まれ今年には110年目の節目を迎えます。これを記念して守屋多々志美術館の開催中の企画展の中から作品をご紹介します。

《生田敦盛》は、同名の謡曲を題材にした作品です。右側の若武者は平敦盛、平清盛の異母弟経盛の子で、一ノ谷の戦で源氏の熊谷直実（くまがいのさねざね）に討たれ16歳で亡くなりました。敦盛の遺児（ほうねん）は法然上人に拾われて育てられますが、やがてその子が成長し、僧侶に伴われて摂津の生田の森（神戸市生田神社境内の森、源平合戦の古戦場）を訪ね亡き父の菩提を弔うと、甲冑姿の敦盛の亡霊が現れます。画中の敦盛は亡霊なので半透明に描かれています。若々しく華やかな甲冑装束を身につけ、穏やかに幼子を見つめています。

守屋は徴兵により中国で終戦を迎え、翌年、なんとか日本に復員しました。終戦後3年目に発表されたこの作品は、戦死した友人やその残された家族への思いを込めて描いたということです。



《生田敦盛》昭和23年(1948) (守屋多々志美術館寄託)

企画展「不思議な絵こわーい絵」
会期：7月23日（土）～9月11日（日）

花や生き物の化身や幽霊を描いた屏風絵など、少し怖くて不思議で怖い物語を描いた作品を展示します。

